

持続的な森林資源管理を成り立たせる条件は？

関西支所
多摩森林科学園

大住 克博、奥 敬一
伊東 宏樹

要 旨

自然と調和した持続的な社会のあり方を探索するために、近代以前の日本社会では、どのような場合に持続的な森林資源の利用が成り立っていたのかを、近畿地方における事例研究を集めて分析しました。その結果実際には資源利用が破綻した事例も多く、近代以前の日本社会が必ずしも自然と調和的ではなかったことがわかりました。一方、持続的な森林資源利用が成立していた所では、社会的規制や森林管理技術が導入されていることが多く、伝統的な社会の持つ知恵の有効性が示唆されました。この研究で、持続的資源利用の成立と社会の関わり方の関連を整理したことにより、国内外の地域社会が持続的な森林管理を実現していく方途を考える上で、より客観的な議論ができるようになりました。

伝統的な日本社会と持続的な森林資源管理

近代以前の日本社会には自然と共存した暮らしがあり、自然資源を破綻させることなく持続的に利用してきた、そしてそれを実現するための伝統的な知恵を備えていたということが、よく語られます。そのような伝統的な森林資源管理を解析し、自然と調和した持続的な現代社会のあり方を考えるために過去の事例から有益な情報の抽出を目指しました。

持続が実現された例も破綻した例もあった

この日本の社会が持続的に自然資源を利用してきたという話は、もっぱらイメージとして語られてきたものです。そこで、このイメージの当否を検証するために、近畿地方の中世から近代までの様々な時代における森林資源利用 20 事例について、様々な研究報告をもとに持続性を評価しました。その結果、20 事例の中には、森林資源の持続的な利用に成功したと推測される事例も、失敗したと推測される事例もありました。つまり、日本の社会は自然と調和的であったとは、一概にはいえないようです。

管理が大事

それでは、どのような場合に、持続的な資源利用が成り立っていたのでしょうか？ まず、地域外部の者が利用に関わる場合には、地域住民が利用する場合よりも、森林資源が破綻しやすいのではないかと考えてみました(図1)。しかし、地域の外部者が森林資源利用に関わることと資源利用の破綻は必ずしも結びついていませんでした。次に、資源利用に関わる社会的規制の整備が、持続的な資源利用につながっていたのではないかと考え、両者の関連を調べました。その結果、資源の収穫方法や収穫が許される区域などについて、藩の布告や村掟など

による規制を敷いていることが確認できた 9 事例では、すべて持続的利用が成り立っていましたが、確認できなかった 11 事例では、うち 7 事例で資源の枯渇が認められ、社会的規制の有効性が考えられました。

さらに同じ 20 事例について、造林技術などを用いた積極的な森林管理が行われていたかどうかを検討しました(図2)。持続的な資源利用が行われていたと考えられた事例のほとんどは、里山の柴山や薪炭林、人工林などでした。つまりそれらは、萌芽の良好な発生を考慮した伐採や植林、除伐などの、森林の再生を積極的に促す森林管理技術の実行により、人為的に誘導された森林だと考えられるのです。

このように、持続的な森林資源利用の多くは、何らかの社会的規制や森林管理技術の導入により成立し、支えられてきたことが示唆されました。

成果の利活用—利活用の実績

持続的資源利用の成立と社会の関わり方の関連を整理したことにより、国内外の地域社会が持続的な森林管理を実現していく方途を考える上で、より客観的な議論ができるようになりました。しかし、扱った地域に限られていることから、結論の一般化には、今後さらに事例解析を積み重ねていくことが必要です。

本研究は「予算区分：政府外受託、課題名：日本列島における人間—自然相互関係の歴史的・文化的検討」による成果です。

参考文献

大住克博・湯本貴和(編). 2011. 里と林の環境史文—総合出版, 東京. 284pp.

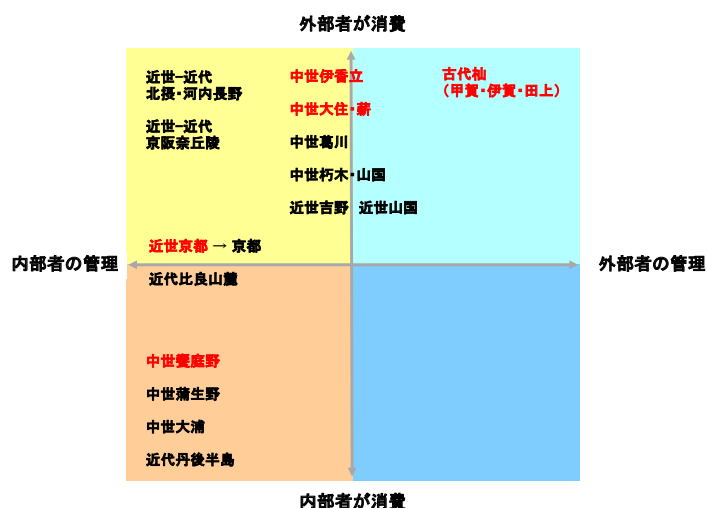


図1 資源の管理と消費における地域外部の影響と資源生産の持続性

黒字は、持続的な資源生産が実現された事例を、赤字は資源生産が崩壊した事例を表す。

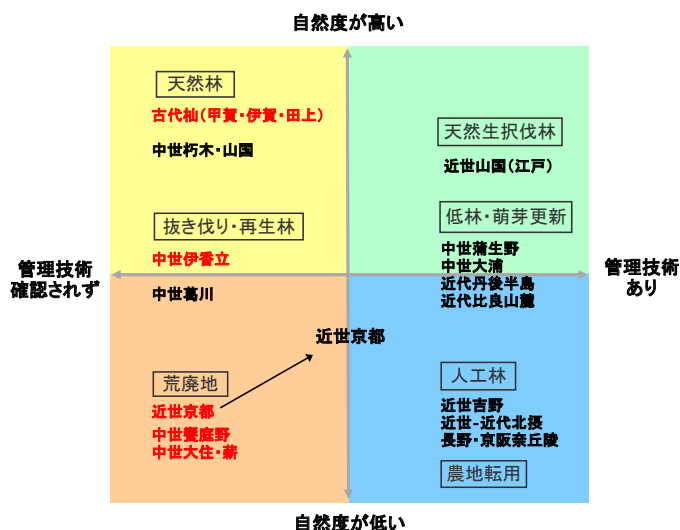


図2 森林管理技術の有無と資源生産の持続性

自然度とは、高；天然林、中；二次林、低；未立木地または人工林を表す。地名の表記法は図1に同じ。



写真1 滋賀県湖南地方一帯では、古代から中世初期にかけて、ヒノキやスギの巨木が天然林から生産され、都の造営などに使用されていた。写真は、甲賀市で出土した、斧による伐採痕の残る飛鳥時代のスギ大径材。



写真2 平安時代に東大寺領として木材生産が行われた伊賀市玉瀧付近の現在の姿。

古代に都に大径木を供給した天然林資源は、中世に入るところにはすっかり失われ、供給地の多くは農業を中心とした荘園に移行した。現在では雑木林や竹林、農地からなる里山の風景に移行していて、過去に天然の針葉樹巨木林が存在していたことを想像することは難しい。